

橋下維新

# 逆流の正体

橋下徹大阪市長の「市政改革プラン(素案)」に対し、地域社会福祉協会や振興町会関係者が憤る理由の一つが、「食事サービス事業(ふれあい型)」の補助縮減・廃止です。

一人暮らしのお年寄りに声をかけて「老人憩の家」などで温かい食事を提供する事業で、40年もの間、ボランティアによって支えられてきました。お年寄りの安否確認や閉じこもりの防止、仲間づくりなどに大きな役割を果たしています。

橋下市長の「市政改革プラン(素案)」に対し、地域社会福祉協会や振興町会関係者が憤る理由の一つが、「食事サービス事業(ふれあい型)」の補助縮減・廃止です。

一人暮らしのお年寄りに声をかけて「老人憩の家」などで温かい食事を提供する事業で、40年もの間、ボランティアによって支えられてきました。お年寄りの安否確認や閉じこもりの防止、仲間づくりなどに大きな役割を果たしています。

高齢者を含む世帯のうち  
指折り数えて

ある地域社協の会長は

## 高齢者の楽しみまで

### 第1部 市民攻撃に立ち向かう ②



第12回「地域ふれあいコンサート」  
阪市淀川区民センター

事業のことを、目を細めながら語る一方、「市政改革」への怒りを隠しません。

「ここにつけるわずかな補助金まで削りますか。市政改革プロジェクトチーム(P.T.)は一度でも現場を見に来たいたい」

P.T.だけの問題ではありません。1食あたりの市の補助が250円で、本人負担が300円なら550円分の食事になるというこの事業について、橋下市長は「僕、知事時代に280円の弁当でしたんで」「550円、結構いい値段ですよ」などと発言。知事時代公用車でのジム通いが問題になったことなどど吹く風で、補助縮減・廃止を「正当化」しました。

「市政改革プラン(素案)」では、さらに地域福祉の事務局機能を担うネットワーク推進員への補助まで廃止しようとしています。

同推進員は、地域の人が専門的な研修を重ねて担う職務で、老人憩の家などを拠点に、地域のお年寄りの実態を把握し、日常的に支援にあたっています。

「地域のみなさんはカンカンですよ。推進員の手当を切って輪番でやればいいと思いますが、何をやっているか知っていないのでしようか。夜中に一人暮らしの高齢の方が運ばれるとなれば、その救急車に乗って、朝まで付き添う人たちですよ」

「地域福祉のネットワークが壊されるんじゃないかと心配。たたいはこれからです」(つづく)

「大阪市の地域福祉を守る会」は5日までに地域福祉を守る陳情署名を約1万2千人分集めました。

篠崎さんはいいます。「地域福祉のネットワークが壊されるんじゃないかと心配。たたいはこれからです」(つづく)